

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101091
法人名	社会福祉法人 善隣会
事業所名	グループホーム山径
所在地	甲府市和田町2948番地の6
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 16 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6 年 2 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る方には可能な範囲で、食事の支度や掃除、洗濯などの家事を行い、自宅に近い状況での生活が送れるよう支援している。買い物は近隣のスーパーや八百屋さんで購入し、近隣のお米屋さん配達して貰うなど、慣れ親しんだ食材を使用している。四季の行事を大切にし、四季折々の食材を使い、季節を感じてもらえるよう工夫している。コロナ禍で、面会が制限されている中、御家族とは毎月「山径通信」を通じて生活の様子を写真付きで報告すると共に、三か月に1回、居室担当より手紙にて生活の様子を報告、また、オンラインでの面会も行い、ご家族との関係も構築している。山径通信を通して、生活の様子が分かること、とても好評を得ている。終末期になる前にご本人、ご家族の意向を確認し、終末期ケアに取り組み、専門医と連携をとり最後までその人らしく過ごせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山径では7年前の豪雪で施設が孤立した際の教訓を活かし、今回の大雪警報に対しても早い段階で除雪を行い、職員の通勤道路の確保に取り組みされていました。理念の1つ「各自が役割を持ち笑顔あふれるホーム」の実践は、利用者個々の持ち前の力を介護計画に反映させ、食事作り、掃除、洗濯干し等 職員がさりげなく見守りサポートすることで役割活動が継続されていました。デイサービス併設の強みを活かし、担当職員が毎日多彩なレクリエーション活動を企画して、心身機能に働きかける取り組みを行っていました。管理者から「年間で事業所が必ず開催しなければならない指定研修の講師を、職員が担当制で交代して行うことにより、職員本人の自己研鑽や成長につながっている様子が見られます。」と伺いました。研修の成果や職員育成に工夫して取り組まれていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互いに仲良く助け合うホーム」「各自が役割を持ち、笑顔あふれるホーム」「和やかな会話が絶えないホーム」「地域の方と交流を持ちながら暮らせるホーム」この4点を理念に、日々の実践に繋げている。また、週1回のミニミーティングやスタッフ会議などでも確認し、共有している。	山径の理念「各自が役割を持ち笑顔あふれるホーム」があり、その実践風景として利用者と職員と一緒に、家庭と同じように昼食後の後片付けを慣れた手つきで行っていました。その後2人の利用者がソファで並んで寛いでいます。午睡をされる方等、皆思い思いに食後の時間を過ごしていました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は地域との交流は中止している。	コロナ禍で地域との交流は中止されていましたが、今年に入って少しずつ交流が始まりました。1月は和田町自治会の獅子舞老人クラブの訪問があり、正月の風物詩を楽しまれました。感染状況を見ながら、以前のように地域との交流を復活させていきたいと管理者ヒアリングで伺いました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方やご家族の方に伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、サービス状況等の説明を行い、参加者から率直な意見を頂き、日々のサービスへ繋げる努力をしている。	隣接する特養の会議室にて2か月に1回開催しています。家族代表、地域包括、自治会代表、有識者、居宅統括、事業所からは管理者を含め3名参加しています。11月の会議では、11月に新しく赴任された所長の挨拶があり、利用者の状況や運営報告、参加者からは退所についての質問等がありました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が来所している。二か月に一度、運営推進会議録にて入居者の現状や状況、取り組み内容等を報告している。	市から介護相談員の派遣があります。サービス提供者や利用者からの話を聞き、相談に応じます。利用者との会話からホームでの生活の様子やニーズを把握して、必要なことは事業所へ報告があります。市へは運営推進会議の議事録を持参し、取り組み状況を口頭で報告して連携を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回研修会を実施し、スタッフ会議ではアクシデントやインシデントについて再度振り返り、再検討をしている。また、3ヶ月に一度、身体拘束適正化について会議を行っている。行動制限のないよう見守りし、安全確保と寄り添う介護に努めている。	現在、身体拘束はありません。特に生活支援の中でスピーチロックに気を付けて、互いに指摘ができる様にスタッフ会議で周知をしています。年2回の身体拘束防止研修会は、年度の事業計画作成時に研修講師担当を職員に割り振り、担当になった職員は自ら学び研修講師を務めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回研修会を実施。入居者の身体的・精神的変化は記録に残すと共に、日頃のケアを振り返り、不適切ケアについて職員で考える、話し合える職場作りに努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元引受人が県外にいる方が増えてきている。他事業所とも相談や助言を頂きながら対応している。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書や重要事項の説明を行い、その場では理解し難い部分においても、ご家族の思いを聞きながら日々の中での説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは、日々の関わりや、月に1回行われる入居者主催の「なでしこ会」にて意見や要望を聞き、行事食や外出レクなどに繋げている。ご家族に対しても、担当者会議の際や面会時、電話連絡等を利用して意見や要望を聞いている。	家族の意見や意向の把握は、面会時や身の回り品を持参していただく際等に、職員がその都度利用者の様子を伝え、家族の意向を聞く大事な機会としています。特に毎月開催される利用者自治会「なでしこ会」では、食事や外出等の希望、行事・レクレーション活動の希望等運営に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回管理者は、運営者と意見交換を行っている。また、スタッフ会議やミーティングの際などにおいて、意見交換を行い、その内容を運営へも活かせるようにしている。	日頃、勤務内での職員との意見交換やスタッフ会議にて出された意見要望は、月1回の管理者と運営者との幹部会にて報告検討を行って運営に反映しています。最近の例では、お昼の休憩時間の確保について、職員と話し合い、記録の時間と休憩時間を区別し、就業環境の改善に取り組みました。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	初任者研修において、就業規則についての説明や嘱託職員から正規職員への登用も行っている。スタッフ会議においては、個々の意見を尊重した意見交換に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に研修への参加。また、月1回研修会を実施し、講師は持ち回りで個々のスキルアップに努めている。新人職員への研修は、勤務体制を考慮し優先的に参加してもらっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは、会議や研修会等で行っている。リモート、ラインでネットワーク作りを行っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階でも要望や不安を聞き、どのような場所かの説明を行い不安解消へと繋げている。また、入居者にも困っている事や不安な事に対して聞きながら対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時には、要望や不安等の思いを聞き、説明を通じて理解を得ながら安心へと繋げている。随時、相談も可能である事も説明している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の記録やケアマネ、ご家族の情報から家族・本人が置かれている現状、必要としている事を見極め必要な対応を行っている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出や外泊、行事への参加等は行っていないが、電話、タブレットでのオンライン面会やパーテーションを介した面会実施を行いながら、継続した関係を保っている。また、ご家族の役割を入居時に説明している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は新型コロナウイルス感染防止のため、人ごみを避ける、または車の中から景色を見てもらう等の外出は出来ているが人ととの面会は出来ていない。	現在家族面会は、他の利用者との接近に注意しながら居室内まで行かれるようになりました。家族は、久しぶりの本人の部屋での面会を楽しまれて安心されている様子が伺えます。今後感染状況を見ながら、利用者行き付けの場所や友人面会等の拡大を検討していきます。(管理者ヒアリングより)	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要な方へは職員が間に入り、入居者同士へもお願いしながら互いの関係を支え合っている。月に一度入居者主催の「なでしこ会」を通じてより支え合えるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ前は、ボランティアとして来所して下さっていた。大体的場合は、退去後の関係はなくなってしまった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当居室を持ち、よりその方の日常を把握できるようにし、互いに情報交換をしている。またご家族からの情報やアセスメント、日常の会話や表情、言動などを把握し、希望や意向を汲み取るよう努力し把握に努めている。	居室での面会ができるようになり、家族の思いや本人から聞いた意向を職員へも伝えてもらえるようお願いしています。特に担当職員は、利用者と関わる日常の中で、言葉にならない本人の意向の把握に努め、把握した意向や不安な事等をスタッフミーティングやカンファレンスに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、以前関係していた事業所へも連絡を取り、情報収集に努め、全職員で把握し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルサインや関わりの中で状態変化への気づきを常に職員間で共有している。また、個々の過ごし方や生活リズム、出来る事できない事等を把握し、記録に残し、確認ノート等も活用し共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて、本人・家族の意向、往診医・看護師、関係者からの情報をもとに職員協議し、介護計画を作成している。また、ミーティング等でも、サービスの検討を行い現状に合った介護計画へと繋げている。	利用者担当職員がケアプラン見直しを行い、日々のモニタリングを細かく指定用紙に記録しています。モニタリング情報、本人家族の意向把握、医師・看護師他の関係者の情報をもとに、現在の介護計画は適切か変更が必要か、生活全体からニーズを把握して協議を行い、介護計画を作成しています。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	確認ノートを活用し情報の共有を図り、ケース記録にてケアプランの確認、日々の様子、ケアプランに沿ったケアが出来ているか等記録に残し、モニタリングを通し介護計画の見直しをしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物など、ご家族が対応出来ない場合には、連絡を取りながら送迎や付き添い、代理購入などを行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回理容師が来ている。以前は、近隣のスーパーへの買い物や行事への参加など行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域との関わりは持っていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、主治医についての説明と確認を行い、希望に合わせた主治医への連絡、往診等の対応を行っている。	基本的には入居時に主治医について説明し判断いただいています。事業所でも隣接すつ特養から週2回看護師が定期訪問し、身体チェックと24時間における医療連絡体制を実施しています。また、グループラインで事業所と関係医療機関との情報の共有を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルサインの実施と、週に1回、適宜、看護師に日々の様子報告や気になる事について相談している。必要なアドバイスをもらい、往診医との連携へと繋げている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に面会に行き、医師や看護師との情報交換を行い、退院への必要な援助についての確認を行いながら、早期に退院へと繋げている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行うが、重度化した際には、ご家族・往診医・看護師等必要関係者も交えた話し合いの場を持ち、連携体制の確保と方向性を決めている。	重度化した場合や終末期の方針について、入居時の説明と、定期的に利用者の状態を鑑み家族の意向把握を行っています。山径では浴室の環境が家庭風呂と同じ個浴になっている為、重度化された場合の環境や医療の必要度について、本人・家族とお話して看取りを行っています。住み慣れた家として看取りを希望される方が多いと、管理者からお聞きしました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回緊急時の対応について勉強会を実施し、連携体制の確認等もしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成と年2回の防災訓練を実施している。防火管理者による防災教育等もしている。	災害対策として、7年前に発生した豪雪災害の経験を活かし、事業所までの主要道路が1本の為、早い段階から除雪を行い道路の確保を最優先で行っています。年2回の避難訓練を災害想定訓練として、隣接する特養や和地区と連携して強化を図っています。(管理者ヒアリングより)	今年1月に発生した地震災害を教訓に、実際の災害を想定し、どこにどのように避難するのか・とどまるのか、エレベーターや電気が止まった時、また夜間など、いくつかのパターンを想定して、職員が判断し動けるような実際に即した訓練に取り組まれることを期待いたします。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム山径

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけの工夫や会話の仕方や対応に心掛けています。入室時のノックや排泄面での言葉遣いには十分に注意している。年1回プライバシー保護や職業倫理についての勉強会を行っている。	一人ひとりの趣味や嗜好を大切に、将棋の好きな利用者と職員の対局等取り入れています。今年は5月に人権やプライバシーに関して研修会を開催しています。日頃から職員がいかに平常心を保ち、より優しい関わりを持てるかを大事にしています。(管理者ヒアリングより)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中や入居者主催の「なでしこ会」を開催し、希望や要望を伺う。選択の機会を多く持つようし自己決定にも配慮した働きかけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の意見や要望・意向を尊重し、本人のペースに職員が寄り添い合わせた対応をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中での整容、外出時のおしゃれ、好みの洋服を着て頂いている。月に1回美容師に来て頂き、希望者は利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を取り入れたメニュー作りや、可能な方には出来る範囲で役割を持ってもらい、協力しながら行っている。	月1回開催される利用者自治会「なでしこ会」で食事の希望を伺い、メニューに反映しています。訪問当日の餃子づくりや、台ふき、食器の洗い物等、皆さん張り切って行っていました。お楽しみランチメニュー・誕生日メニューや行事メニューも季節感を楽しめ、非日常に配慮されていました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活状況表の活用。栄養バランスを併設する栄養士に相談している。往診医の意見と合わせて行っている。水分については好みの物も用意し提供している。管理栄養士による勉強会も実施している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施。夜間はポリドントの使用。必要に応じて歯科医に相談・往診依頼している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入やその方の行動、仕草などから声かけ等を行なう。排泄リズムの把握に努めている。	トイレでの排泄を基本に取り組んでいます。入居時や心身の変化がある時は、アセスメント期間を設定し、排泄状況の把握を行って支援方法の決定を行っています。現在は、夜間のみポータブルトイレ使用の利用者4名以外は、昼夜トイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのよい食事の提供や、食事量、水分量のチェック。排便を促すような寒天や牛乳、食物繊維や温度刺激、乳酸菌などの提供も行っている。排便チェックを行いながら往診医にも相談している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能。希望に沿っている。入浴を好まない方には言葉かけの工夫をしたり、職員間で連携を図り対応している。	現在は、一部介助での入浴が8名、全介助での入浴の方が1名です。リフトがない為、職員2人対応で浴槽への出入りの入浴介助を行っています。入浴への誘導は無理をせず、時間やタイミング、声かけを工夫して誘導しています。(管理者ヒアリング・ケース記録より)		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム山径**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お薬手帳や処方箋ファイルを作成。その都度確認出来るようにしている。薬が変更になる際には、個別のファイルや確認ノートを活用し情報を共有を図っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の力を見極め、生活歴などを把握しながら、食事の片付けや洗濯干し・畳み、掃除等の作業や、趣味の裁縫やカラオケなどの楽しみなどを支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在外出は控えているが、ドライブやベランダ、玄関先へ出て周囲を歩く事も出来るようになってきている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、感染対策として人混みは避け、車窓から景色を楽しむドライブを行っています。1月の初詣は武田神社へ2班に分かれて行かれました。管理者より「4月からは外出計画を多く取り入れ、活動的な生活で笑顔を増やしていきたい。また、四季の季節感を大事に感じてほしい。」と伺いました。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に合わせて電話をかけ、かかってきたら取り次ぎ、やり取りが出来るようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節に合わせて花や装飾、新聞や雑誌を置き自由に読む事も出来る。窓の開閉、エアコンの温度調整、換気、湿度調節を行なう。ベランダにも椅子を用意して座ってゆっくり過ごせる環境を提供している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	席の工夫、自由に座れるソファや畳み、テレビや雑誌、新聞等の提供。一人ひとりが好きな時間を過ごせるように努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居前に説明を行い、居室内の環境へは愛用品や愛着品を持って来て頂いている。居心地の良い環境が過ごせるよう設置や配置なども本人やご家族にお願いしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活行動の把握に努め、危険個所がないか確認し、改善する等自由な行動の妨げにならないよう安全へ配慮している。各居室の入口には表札を設けて、自分の部屋がより分かりやすくなるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している				